

【基本理念】 ごみの減量に取り組み、資源が循環するやさしいまち
～次世代へつなげよう、心地よいくらし～

第4回専門部会で提示したキーワード・基本理念(案)

<キーワード>

- ・質にも着目した循環型社会、2 Rの取り組みがより進み、質実剛健な社会
- ・今のライフスタイルを見直し、ライフスタイルが変革する社会
- ・地域の資源が地域で巡り回り、地域循環圏が形成・高度化された社会
- ・社会状況の変化に応じ、循環の形態が変化できる社会

<基本理念(案)>

- 案1 "巡"環が次世代へと繋がるやさしいまち
- 案2 3 Rの"環(わ)"を繋げる、循環型まちづくり
- 案3 地域循環圏が絡み合い、社会状況の変化を克服する環境都市

主な意見

- ・地域循環圏が「絡み合う」や社会状況の変化を「克服」など、ニュアンスが違うと思う。あっさり言葉を伝えたほうが良いのではないかと。
- ・次世代へつながることが大事だと思う。
- ・ひらがなを用いて平易に表現すべきだと思う。
- ・できるだけごみを出さないまちをつくるのはどうすればいいかを基本理念にすべきではないか。
- ・「環境都市」が漠然とした印象のため、「循環型まちづくり」のほうが良いのでは。
- ・多様な者がいる中で、みんなで協働しながら環境都市をどのようにつくっていくかを言葉で表現できると良いのでは。
- ・理念の切り口としては、「ごみ」が良いのではないかと。ごみを以て環境を考える。
- ・案3が良いという意見が多く出た。案3をベースに事務局で再考してほしい。例えば、「地域循環圏が調和し、次世代へつながるやさしいまち」などが考えられる。

- ・切り口を「ごみ」とし、減量することを平易に「ごみの減量」で表現
- ・地域循環圏を平易にし、「資源が循環する」で表現
- ・社会状況の変化に対応し、その状況に対応することを「やさしいまち」で表現
- ・次世代や未来へつなぐことを、副題の「次世代へつなげよう」で表現
- ・どのような環境都市にするか、理想の都市像を「心地よいくらし」で表現

上位計画である第五次長野市総合計画及び第二次長野市環境基本計画後期計画では、次の基本構想や望ましい環境像が設定・議論されています。

総合計画 基本構想

○人と自然が共生するまち「ながの」

環境に配慮する市民意識が育まれつつある一方、わたしたちの日常生活や社会経済活動が地球温暖化をはじめとする様々な環境問題を引き起こす一因となっていることから、環境保全に向けた取組を促進する必要があります。

市民・地域・事業者・行政などの連携の下、豊かな自然環境を保全し次世代へ継承するとともに、環境に配慮しつつ心地よく暮らすことのできる持続可能な社会を形成し、人と自然が共生するまち「ながの」を目指します。

環境基本計画 望ましい環境像

○資源が循環する地球にやさしいまち

資源やエネルギーを効率的、循環的に利用することにより、持続可能な社会を構築し、地球環境保全に貢献する環境共生都市「ながの」を目指します。